

森と共に地域の力で 未来を創る

岡崎市における
SDGs
推進事例集

はじめに

岡崎市は 2020 年 7 月に「SDGs 未来都市」に選定され、「岡崎市 SDGs 未来都市計画書」を策定しました。

SDGs とは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

国の脱炭素社会実現の方針を受け、岡崎市では、2050 年のゼロカーボンシティの実現に向けて、市域の地域特性、自然環境、産業構造など総合的に勘案した快適な生活空間の形成や地域経済の活性化につながる取り組みを推進しています。森林そのものや森林資源・森林空間の活用が様々な SDGs に貢献し、森林の整備・保全に還元されるという大きな循環につながっています。



森林をはじめとする河川や水源地など豊富な自然資源を有する岡崎市において、SDGs 及びカーボンニュートラルを学ぶ機会や、それに対して企業などがどのように取り組んでいくかを具体的に考える契機を段階的に提供し、本質を理解し、活動していく人材を育てる取り組みとして、2021 年より 3 年間 SDGs セミナーを運営してきました。

初年の 2021 度は、グローバルとローカルの両面から SDGs について学ぶ学習会を開催しました。

	講師	テーマ
第 1 回	佐藤真久氏（東京都市大学教授）	「SDGs の本質と企業が取り組む意義」
第 2 回	辻井隆行氏（元パタゴニア日本支社長）	「SDGs と消費行動」
第 3 回	枝廣淳子氏（有限会社イズ代表）	「SDGs と地域経済」
第 4 回	新井和宏氏（株式会社 eumo 代表取締役）	「SDGs と消費行動」
第 5 回	竹本吉輝氏（株式会社トビムシ代表取締役）	「SDGs の実践に向けて」 （事例紹介とグループディスカッション『地域の資源を生かして地域活性化に貢献するには』）

※講師の肩書はセミナー開催時のものです

2022 年度は、前年度セミナーで SDGs の本質や地域経済循環の効果を学んだ参加者を対象に、具体的に森林資源をどのように有効活用しビジネスに活かすかを学ぶ機会（アイデア、関係づくりの場等）および参加企業間の有機的なつながりを持つきっかけとなる機会として講演とワークショップの 2 部構成のセミナーを全 4 回実施しました。

	講師	テーマ
第 1 回	江口則和氏（人間環境大学 講師）	「森林・林業の現状と課題」
第 2 回	小原淳氏（西三河林材団体連合会 会長）	「森林整備の重要性」
第 3 回	小串重治氏（グリーンフロント研究所株式会社 代表取締役）	「企業と森林とのつながり」
第 4 回	木質化の取り組みと木材の具体的な利用方法として、くらしの杜クリニック*、岡崎信用金庫 城下町支店* を小原淳氏 の解説とともに見学	

※講師の肩書はセミナー開催時のものです

2023 年度は、機運が高まりつつある森林 ×SDGs の取り組みを全市的に展開するべく、市内の先進企業の取り組み事例を共有し、参加者同士が SDGs 推進に関する情報収集や意見交換、課題相談できる場を提供しました。

「岡崎市における SDGs 推進事例集」は 2023 年度 SDGs セミナーに参加した企業の SDGs の取り組みをまとめたものです。事例集をきっかけに SDGs の取り組みが広がっていくことを期待しています。

*くらしの杜クリニック（岡崎市羽根町字若宮 30-1）第 5 回あいち木づかい表彰最優秀賞受賞施設

*岡崎信用金庫城下町支店（岡崎市上六名 2-8-8）第 1 回あいち木づかい表彰優秀賞受賞施設

SDGsとは？

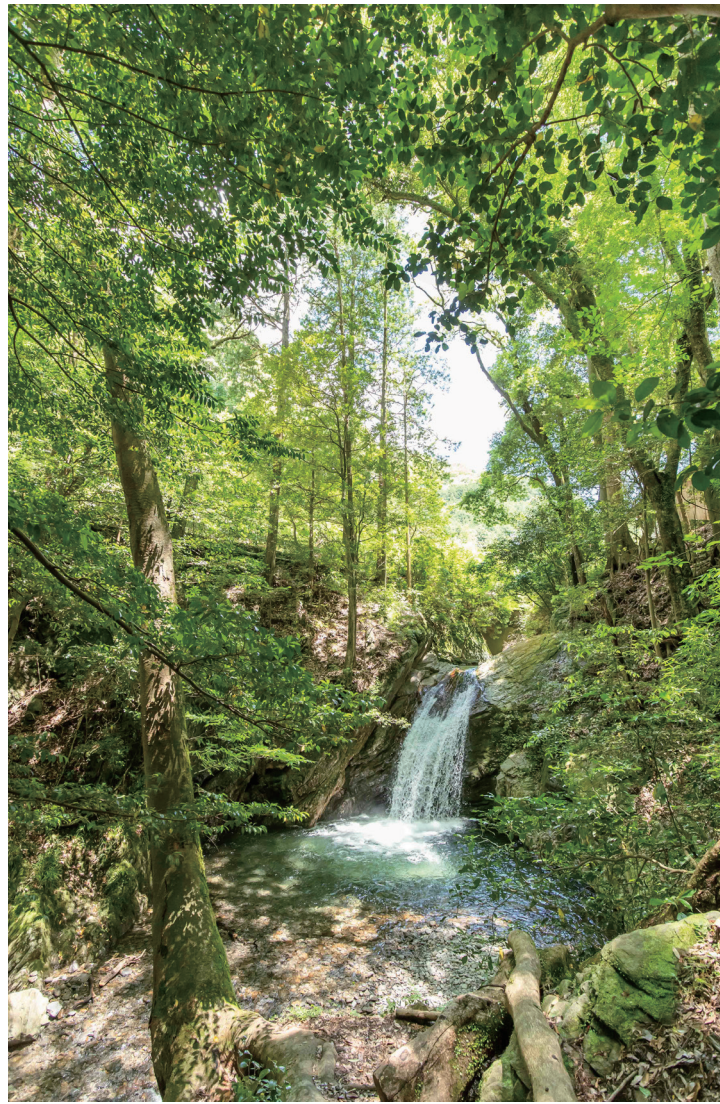
SDGs とは、2015 年 9 月国連で採択された「持続可能な開発目標」です。「誰一人取り残さない」という理念のもと、「世界の貧困をなくす」「持続可能な世界を実現する」ことを目指した、2030 年を達成期限とする 17 のゴール、169 のターゲット、および、その進展を評価するための指針を持つ包括的な目標です。



おかざきの森林資源を知る

2006 年に旧岡崎市と旧額田町が合併した岡崎市は、人口約 40 万人という比較的大きな自治体ながら、市域の約 60%である約 23,000ha を森林が占め、豊かな森と豊富な水源に恵まれています。飲み水や工業用水の約 50%を市内にある水源により確保しております。

明治中期には、はげ山や草地もありましたが、明治期の植林や村有林の形成、戦後の広葉樹林からスギ・ヒノキ人工林への転換などの歴史的経緯を経て、現在、森林は市域の約 60%を占めており、そのうち約 90%が木材として利用可能な 40 年生（8 齢級）以上の森林です。人工林は、間伐等の適切な森林整備の実施によって良質な木材の持続的な供給に向けて木材等生産機能を高めるとともに、公益的機能を十分に発揮させていくことが大切ですが、額田地域を中心に分布する人工林は、林業の低迷により手入れが十分に行き届いていないのが現状です。また、市街地周辺から山間部にかけての地域に分布する里山林や、国立公園や県立自然公園等を中心に分布する、優れた自然環境を持つ天然林については、レクリエーションや生物多様性保全の観点から適切に管理・保全を行うことが求められます。



市街地周辺から山間部にかけての地域に分布する里山林は、有史以来、人間の営みによってつくりあげられ、受け継がれてきた風景であり、地域固有の動植物の生息・生育場所として、また、日本人共有の原風景・精神文化の基盤となっています。生物多様性の保全や、文化の継承という観点からも、里山林の保全と活用を進めていく必要があります。森林づくりを支える「地域の環」・「人の環」を形成していくことにより、適切に保全・管理された多様な森林が健全な状態で共存し、地域のぬくもりあふれる木材やその他林産物が持続的に生産される「岡崎らしい森林」の創造を目指しています。

ところで、森は誰のものでしょうか？登記簿上はもちろん所有者のものですが、所有者であっても自由に伐採したり開発したりはできません。山林が洪水や土石流による甚大な災害を防いでいるからです。水源と美味しい空気や美しい景観を生み出してくれる森林に手を入れることは慎重でなければなりません。一方で一度手を入れた森林は、100年先の将来を見据えて森林の整備と環境保全のための絶えまぬ努力を続ける必要があります。人工林や里山林の放置が続いていけば、良質な木材等生産ができなくなり、森林の持つ様々な働き（多面的機能）の低下につながります。



100年先の将来のために大きな役割を果たしている組織のひとつが森林組合です。森林組合は森林組合員（森林所有者）の出資等により、設立・運営・利用される組織で、全国に610組合（2021年）存在します。愛知県下には50年前には50以上の森林組合が存在しました。統合が進んだ結果、現在は6つの森林組合があり、そのうちのひとつである岡崎森林組合は2021年に満100年を迎えました。



岡崎森林組合は、組合員の所有森林で国や県の補助事業を活用した生産間伐、保育間伐、森林整備（伐採、草刈、間伐、枝打など）、調査、治山、林道整備や木材やその他林産物の販売などを行っているほか、林業の担い手確保、地域森林の経済的な価値向上のため、森林整備担い手人材育成事業や木づかいPR、森林の環境貢献機能の社会経済的価値評価をCO2吸収源のクレジット化・販売によって山林に還元していく「フォレストック認定制度」によるCO2吸収源クレジットの発行なども実施しています。2023年12月にわんパークで開催されたオクオカわんぱく祭りでも林業重機パフォーマンスを披露しました。市内のイベントやお祭りで岡崎森林組合の仕事を知る機会は意外とたくさんあります。豊かな自然や豊富できれいな水の縁の下の力持ち、森林組合のお仕事に興味を持った方は是非遊びに来てみてください。

岡崎森林組合 岡崎市明見町田代9-1 <https://okamori.org/>
岡崎市森林整備ビジョン（令和3年3月改訂）
<https://www.city.okazaki.lg.jp/1300/1303/1324/p029025.html>